

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第 62 号 2015 年夏号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

## 春の生きもの観察会 6月7日(火) 9:30～11:30

朝から雲が多かったが丁度良い気候でした。5月に予定で雨の為に延期した生きもの観察会です。事前に名戸ヶ谷小などへポスターを持参し、参加者は児童12名(名戸ヶ谷小など)その父兄5名と計17名でした。始めにビオトープの概要説明のあと、手に手に網を持ちBゾーンのザリガニ釣り場、三角池に向かいアメリカザリガニなどを捕獲、又カナヘビも捕まえて容器に移し並びました。事前に用意したドジョウ、ウシガエルのおたまじゃくし、メダカ、スジエビ、影山さんが見つけたクサガメも容器にいれ盛りだくさん、篠崎さんからこれらの詳しい説明をしました。

外来種のこと、メダカとカダヤシの違い、アメリカザリガニの由来など写真を見ながら



竹竿でじっと待っています



容器に入れた生きものの説明です



ザリガニ捕れないなあー

話し、皆熱心に聞き入っていました。次は又昆虫類の捕獲網に持ち替えてのトンボ、蝶などを追いかけて回し、捕まえてこれらの説明を受けました。最後に篠崎さんがビオトープで撮った鳥、昆虫、魚、クモ類などの写真多数を希望者へ配布して児童たちは喜んで持ち帰りました。

父兄には「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」のパンフを渡して、生きものとの楽しい触れ合いのひとときだったと思います。こうした自然の豊かさと大切さを皆さんが学んで欲しいと思います。

(藤平三郎)



ザリガニを触って話を聞いています

## 春の生態系調査 6月13日(月) 9:30 ~ 11:00 気温28度

梅雨空で曇りの天気となり、風もなくムシムシとする日で恒例の生態系調査を行いました。

柄澤さん、篠崎さん、松清さん、星合さん、佐々木さん、山村さん、そして小生 7名の参加でした。

佐々木さん、山村さんらは植物調査、残りの会員は生きもので1時間半あまりABゾーンを調査し60種を確認です。前年よりは減

少ししました。ビッグニュースはビオトープで初めて発見された「アオヤンマ」です。千葉県重要保護種Bに指定され全身黄緑色で見事なものです。このヤンマは葦がたくさん茂っているような池・沼に生息するとなっています。ビオトープの環境保全が皆さんの協力できっかりと維持管理されて、こうした貴重な種が生育できると思います。大変有意義な半日となりました。(藤平三郎)

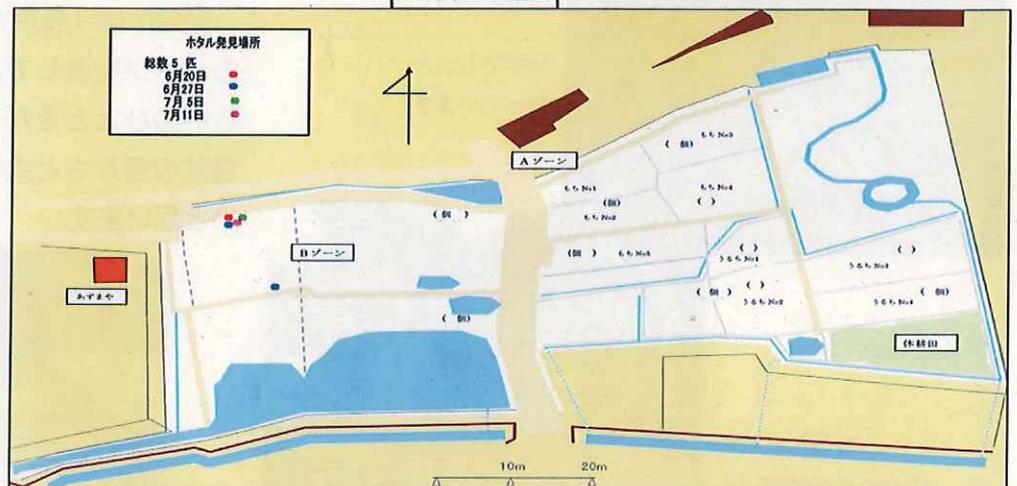


## ホタル観察会

例年と同時期でホタル観察会を4回行いました。4月に212匹の幼虫を放流しサカマキガイなどの餌をまいてきました。今年は雨の多い梅雨となりどうなるか心配でしたが6月20日1匹、6月27日2匹、7月5日1匹、7月11日1匹の発光確認で計5匹と昨年より増加です。今年はホタル放流水路では全く確認が出来ずに全てBゾーン北側、中央木道沿いでした。又7月5日には初めてヘイケボタルの撮影に成功しました。又来年に期待しましょう。(藤平三郎)



2015年6月~7月  
ヘイケボタルの観察会



## 田の草取り作業

今年は子供たちの楽しい田植え応援がありましたが、植え直しに少々時間と苗が多くかかりました。農薬ゼロのため、今年も雑草が繁茂し、特にコナギがどんどん成長してきました。5月30日から約1ヶ月間、毎週土曜日に草取りを行いほぼ取りきりました。また、5月末に「カリ肥料」の散布、6月末には「穂肥」の追肥を田んぼの面積に合わせて計量、散布しました。(小笠原 智)

## 今年もスズメよけネットを張りました

7月18日に「もち稲」の穂が出ました。7日ほど遅れて「うるち稲」も出ました。ほぼ例年通りで、順調に生育しています。スズメもこれを見逃さず、おいしく実り始めた穂を食べに多くが集まっています。手賀沼沿いの田んぼは「農薬の空中散布」をしているので、安全なビオトープに集まってくるのでしょうか。「ごめんなさい」と思いながらもネットを張りました。トンボが入ったときは、助けてください。(小笠原 智)



白骨化した「ウシガエル」

## 今年の案山子は誰でしょう

夏休みの宿題は終わりましたか？・・・今年も案山子作りです。今年は、テニスの世界大会で大活躍中の人と芥川賞受賞者にしました。パンダとコアラも色あせてきたので、ちょっと小さめに作り直しました。散歩に来た方や園児たちが喜んでくれるのが励みです。(小笠原 智)



## Bゾーンの三角池にオーバーフローの排水管を設置しました

湧水量が減って、池の水の汚れも目立つようになりました。排水管が埋まっていたので、パイプを追加して、あふれ水の排水管を立ち上げました。少しは改善されるかな。

(小笠原 智)



## 合同作業日の活動状況

毎月第三土曜日の合同作業日には多くの会員参加のもと稲作活動、生き物・植物保全活動に伴う作業や柏市からの委託活動（周辺地の草刈り、ゴミの収集、木道保善等）を行っております。

7月18日(土)



ザリガニ釣り場



中央木道脇の雑草



Bゾーンのミント刈り風景



ザリガニ釣り場の草刈り後



中央木道脇の草刈り後



畦の草刈り後

この日参加者は9名で行いました。木村邸前の斜面の草刈りや、ザリガニ釣り場の葦の刈り取り、Bゾーン中央の木道脇の草刈りや田圃の畦の草刈り、その他回生の里のフェンス側の雑草刈り取り、ゴミ拾い作業等行って、ビオトープの環境保持の一助に努めました。

8月15日(土)



木村邸前の草刈りの風景



U字溝の清掃後

今夏は猛暑続きで雑草の成長も著しく、速やかな処置が必要で、この日は10名の会員が参加され、木村邸前のU字側溝を含めた清掃、Aゾーンの旧ホテルゾーンのつる草の除去、休耕田のアメリカセンダン草の除去等の作業を行いました。  
(園田廣満)

## 絶滅危惧種の紹介「アオヤンマ」

6月13日、毎年恒例の生態系調査を行った。その時、Bゾーンの背の高いアシ原の中を、アシを縫うように飛んでいる大型のトンボがいた。捕えてみるとアオヤンマだった。ビオトープでは今まで見たことのない新顔である。

アオヤンマは一般に、後羽の長さは43～48mm、腹長53mmくらいで体はやや太く黄緑～青緑色である。羽は透明で淡黄色を帯びた美しいトンボである。腹背には2本の黒い筋が縦に走り、その中間は緑色の細い縦筋となっている。一般にトンボの産卵は水中に尾を差し込んで行うが、アオヤンマは固いアシの茎に産卵管を差し込み、中空部にびっしりと卵を詰め込む植物組織内産卵と言われる方法である。

他のヤンマは腹部第3節がくびれているが、アオヤンマはこれがなく寸胴である。北海道、本州、四国では観察されているが、九州では一部に限られている。一般にトンボはクモの巣にかかってエサにされることが多いが、ア



アオヤンマ

オヤンマの主食はアシ原にいる各種のクモ類である。アオヤンマの飛ぶ姿は5月から9月にかけてみることが出来る。

環境省レッドリストでは准絶滅危惧種(NT)、千葉県では重要保護種Bに指定されている。

なお、昨年中にビオトープで観察されたトンボは19種で、この中にはクロスジギンヤンマ(千葉県一般保護種:D)及びハラビロトンボ(千葉県重要保護種:B)が含まれている。

(篠崎 将)



オニヤンマ (参考)

## 稲作農家の厄日「二百十日」



<参考> 稲の開花 (名戸ヶ谷ビオトープモチ水田) 2015.7.29

稲作農家の厄日であるとされてきた「二百十日」は立春から数えて210日目の9月1日です。「二百十日」と言えば昔から稲作農家にとっては忌日であり、9月1日頃は育った稲は丁度開花時期になっており、この時期に台風が来て、自家受粉植物である稲はその台風の強風に煽られて、授粉が妨げられて実の入らない「シイナ粃」になり、そのため大幅な減収になります。10日後の9月10日も「二百二十日」と呼ばれて農家の厄日とされています。

この時期に台風の襲来が特に多いのではなく、むしろ「二百十日」はこの稲の開花時期であるので強風を伴う台風が来ないで欲しいとの稲作農民の切なる願いが込められた日であるとも言えます。「今年は二百十日も二十日も無事に過ぎてよかったなあ、これで一安心だ」と互いに喜び合う農民の会話が各地で交わされていたようです。

現在の稲作では9月1日頃はもう稲刈り時期に入ります。稲の開花時期は7月下旬頃であり、約一か月位早まっております。現在では早苗は加温ファームで育苗され、5月上旬田植えが行われています。昔の農作業行事との間に大きなズレが出てきており、厄日としての「二百十日」は現在では殆ど死語のようになっております。(影山賢三)

### 名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）」下車すぐ  
面積：約 4,400 m<sup>2</sup> 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物 26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）